

台風19号被害

田の浜地区の課題と支援策は

被災者に寄り添い進める



議員 木村洋子
(日本共産党)

問 田の浜地区の第2堤防が台風による浸水被害を拡大させたことは、誰が見ても明白だと考えますが、町の見解は。

佐藤町長 田の浜地区防災緑地公園と浸水被害との関連性については、第三者で構成する「田の浜地区台風第19号水害検証委員会」で検証を行う。年度内に結果の報告を受けることとなっており、町が見解を述べる段階にない。

問 田の浜の住民・被災者の怒りの原因として、住民の声や真ん中道路は残すべきという要望に対して、真摯に耳を傾けようとしないうちの姿勢にどうと考えるがどうか。

町長 田の浜地区防災緑

地公園の整備に当たっては、住民説明会や地元主催の意見交換会の場などを通じ、地区住民から意見を聞いています。議会における協議や審議の場でも慎重に議論を重ねた。住民としっかり向き合いながら合意形成が図られたものと認識している。

問 被災者の支援策は被

災者に寄り添った形で進められているか。田の浜地区では住民説明会もたれたか。

町長 戸別訪問により再建意向調査を実施しており、被災者に寄り添った形で進めている。住民説明会については、被災者個々の事情が違うことから、全体での説明ではな



氾濫し道路が川になった長内川

台風19号被害 長内川の氾濫の原因は

記録的豪雨と土石流による

問 豊間根の長内川の川底に敷いてあった「すのこ状の板」が大雨で剥がれ、大量に重なった。そのことにより、水をせき止めたために、川が氾濫したのではと住民より指摘されている。因果関係はないのか。

町長 「すのこ状の板」は木工沈床と呼ばれ、過去の被災によりコンクリート護岸の底部が洗掘されたため、災害復旧工事により設置された。長内川の氾濫は今回の記録的な豪雨と土石流等によってもたらされた。

く、個々の再建方法に応じたきめ細かな対応を行うため個別相談により進めている。

問 豪雨時、防災放送が聞き取りにくいとの住民からの指摘がある。改善すべきではないか。

町長 本町は、町民への情報伝達手段として防災行政無線を基本とし、整

備してきた。指摘のとおり、豪雨時には防災行政無線からの放送が聞き取りにくくなることはあるが、町ホームページ、Lアラート、携帯端末のソーシャルメディア機能の活用などにより、伝達手段の多重化・多様化を図り対応している。